

はじめに

本書は、知的障害のある子どもが文字の書き方を覚え、したことや想ったことを簡単な文で表せるようになることをめざして作成した教材と、その実践事例を紹介するものです。

本書では、１段階で文字のなぞり書きや視写を、２段階で親しみやすいものの名まえや動作語等を、３段階で日常の生活で用いる二語文や三語文、四語文等を、４段階で一日の生活から取り上げた題材で生活日記を書くことを設定しています。

知的障害の子どもが一文字の書き方を覚え、さらに平仮名すべての字体を記憶し筆順通りに書き表せるようになるまでには難度の高い学習となります。また、ものの名まえ等の単語を書くこと、身近な言葉を用いた文を書くこと、したことや想ったこと等を簡単な文で書くことに到達するまでも長い道のりとなります。一人一人の学びにそった系統性とスモールステップの内容で教材を作成し、子どもに最適で直接的な働きかけを行うことで、子どもは活動の楽しさや書くことを学ぶ喜び、期待感、達成感を味わいながら、書くことを習得し高めていくことができると思います。

本書は、書くことの教材作成についてお役に立てるように指導事例として紹介するものです。

文字を書くことは、興味をもっている文字や読める文字、書きやすい文字等からなぞり書きや視写を始めることが効果的であるが、子どもの習得の仕方の違いや書くことについて個人内差が大きい等、子どもたちの学びには違いがあります。また、文字を書く学習は文字を読むことと関連付けて学習する必要があります。

このようなことから、書くことの学習計画は語彙の取得状況や発語の状況、文字への興味、文字の読みの状況、運筆等を基に個別に作成されることが大切です。

本書では書くことに特化した内容で、指導事例を紹介していますが、読むことに特化した内容のワークシートは電子書籍にて紹介しています。書くことと関連付けながらご活用ください。

ひとりでやれる こくごワーク 【たんごをよむⅠ】 【たんごをよむⅡ】

ひとりでやれる こくごワーク 【ぶんをよむⅠ】 【ぶんをよむⅡ】

[読むことの内容を取り入れる例]

書くこと

↑

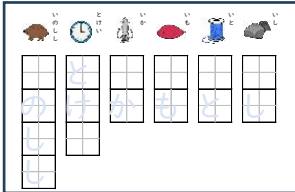
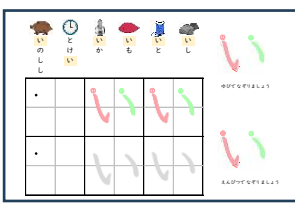
↓

読むこと

読んで、
文字や単語
カードを置く

なぞり書きと視写の段階

なぞりと視写「い」

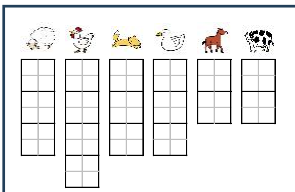


語頭「い」を意識

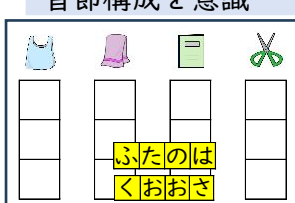


単語を書く段階

教材本を見て書く

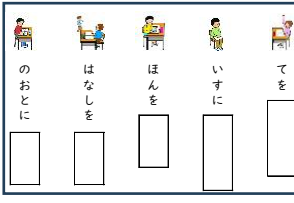


音節構成を意識

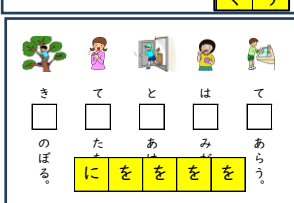
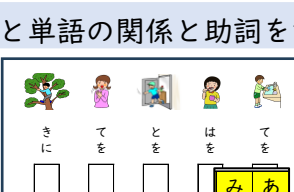


文を書く段階

挿絵を見て書く



単語と単語の関係と助詞を意識



I 本書について

知的障害がある子どもが、まだ文字を読めないけれど鉛筆を持って何か言いながらうれしそうに文字らしきものを紙に書いている姿に出会うとき、子どもたちの文字を覚えることへの期待を強く感じます。このような子どもの姿に出会うとき、まず、一文字でもいい、人に想いを伝えられるようになることを実現してほしいという願いを抱きます。

しかし、子どもたちにとって文字は読むことも書くことも難しいことです。読むことも書くことも一人一人に習得のスピードや仕方の傾向があり、繰り返しや細かいステップで歩む困難な学習になります。そのなかでできるようになった喜びと達成感を感じながら一文字、簡単なものの名まえなどの単語、特殊音のある単語、長音節の単語、簡単な二語文から多語文の読み書きへと学び進めていく子どもの姿を見ることは、この上ない感動です。

本書は、文字を書くことについて、系統性とスモールステップの内容で次のように4段階を取り上げています。

1 段階は五十音を筆順通りに正しく表記できるようになること

2 段階は子どもに親しみやすいものの名まえや動作語等を取り上げ、特殊音のある単語や多音節の単語等を音節構成を理解して書けるようになること

3 段階は日常の生活で用いられている二語文から多語文を取り上げ、単語と単語の関係、助詞の用い方を理解しながら書けるようになること

4 段階は子どもの一日の生活の中から取り上げた活動の挿絵（子どもの生活の記録として残るように意図した生活日記）を基に、したことや想ったこと、理解できたこと等を書けるようになること

特に生活日記は、自分のしたことを振り返って、したことや想ったこと、大切なことを書くようにし、認識を深めたり、自立心を育てることにつなげられるようにしています。

これら4つの段階は、系統性をもたせ、スモールステップで設定していますが、学習者にとっても支援者にとっても、学習を積み重ね、力をつけるのには根気がいります。

特に1段階と2段階の単語を書く段階までは繰り返しの活動が続きます。細かいことでも達成を認め、また、励ましやつまずきに応じた適切な支援で越えられるようにすることが大切です。学んでいる喜びと越えていく成功感を味わわせながら取り組んでいってほしいと思います。

4つの段階での指導のポイントは次のようなことです。

1 段階では、

- ① 子どもが興味をもっている文字や筆順等が少なく書きやすい文字から取り上げること
- ② 文字を指でなぞったり発語したりして音と文字をつなぎながら文字の全体像を捉えさせること
- ③ 繰り返しの活動が必要な子どもにはワークシートをコピーして用いること

2 段階では、

- ① 読んで復唱したり書いたりして音節の構成を捉えさせること
- ② 特殊音のある単語は、特殊音の文字に着目させて読みを繰り返させて、書き表し方と位置を捉えさせること

3 段階では、

- ① 単語と単語の関係を捉えること
- ② 助詞に慣れて使い方を捉えること

4 段階

- ① 体験したことで、したことや想ったこと、感動したことなどを書いて自分の行動を振り返ること
- ② 体験を通して、日常生活のなかでの決まりや社会の決まり等学んだことを書くこと

どの段階であれ、繰り返しの学習が必要です。繰り返しの学習には、教材本をコピーして用いるようにしてください。（営利目的でない個人使用の場合に限ります。）

2 なぞり書きや視写をして、文字を書く段階

筆順で正しく書くと整って読みやすい文字になります。筆順にそって書くと文字を覚えるのが早くなります。

文字を覚える基本は、音とつないで字体を記憶し、筆順通りになぞり書きや視写ができるようになることです。そして、音を聞いて字体をイメージして書けるようになることです。

(I) 指導の要点

覚え方の基本

- 音とつないで字形を記憶する。
- 筆順通りになぞり書きをする。
- なぞり書きは、筆順、始点と終点、画数、はねやはらい、とめを捉える。
- なぞり書きの手順通りに視写をする。
- 音を聞いて文字をイメージして、書く。

取り上げる文字

子どもの名前や好きな文字、子どもに覚えやすい文字から始める。そして、子どもの取り組みやすさをみながら、一画で書く文字、似通った文字等考慮して取り上げる。本事例では次の様に取り上げている。

書きやすい文字の例

一画の易しい文字	し、つ、の、て、く
二画の易しい文字	い、り、こ、う、ら、と、ち
一画の難しい文字	そ、へ、ん、ひ
字形の主要な部分が共通に存在する文字	ろ→る、ま→も、さ→き、け→は→ほ、 に→た→な、め→ぬ→あ、わ→ね→れ
二画の難しい文字	す、ゆ、よ、み、え
三画の易しい文字	お、か
三画・四画の難しい文字	せ、む、や、ふ、を

筆順のルール

筆順は、①から順に番号で示している。上から下、左から右、曲線より直線が優先、短い線より長い線が先等、筆順のルールがある。

文字の覚え方のコツ

- 書きやすく、覚えの早い似通った文字から始める。
- 筆順のルールを意識する。（上から下、左から右、なぞり書きで筆順は①から順に）
- 鉛筆の持ち方を意識する。
- 正しい姿勢を意識する。

体の姿勢

- 背筋を伸ばす、両足をつくーいすが高いときは足をのせることのできる台を置く。
- 腕、肘、手首（最重度なポイント）、手、指

活動づくりの基本

- 反復練習を基本にして、ねらいを明確にしてスモールステップで毎日短時間取り組むようにする。
- 筆順で型を覚えさせ、書くことの基本（姿勢等）を身につけさせる。
- 書ける文字を増やしていく。
- おもしろく楽しくわかりやすくなる活動のポイントをつくる。
- 子どもにそった文字の選択で指導計画を作成する。
- 文字の形のでき上がりのイメージを捉えさせることや筆順を助ける手立てを講じる。

(2) 文字を書くことを習得する学習過程に対応した学習ワーク

① なぞり書きをする。

- ① 文字を読む。
 - ② 文字の字体を指でなぞる。
 - ③ なぞり書きをする。
- ※ 筆順、とめ、はね、はらいに注意して書く。

② 文字を書く。

- ① 挿絵を見ながら文字を読む。
 - ② 音節に学習する文字を書いてものの名まえを表す。
- ※ なぞり書きや視写、自筆で書く。

【 ひらがなⅠ 】

一画の易しい文字 (し・つ・の・て・く)

し

①

し

②

つ

①

つ

②

の

①

の

②

て

①

て

②

く

①

く

②